



Ministerie van Landbouw,  
Natuur en Voedselkwaliteit

# 植物育種、温室の イノベーションに向けた キーテクノロジー

オランダ農業・自然・食品品質省  
種苗繁殖材 上席政策調整官  
マリーン・ヴァルスター

2018年11月21日 東京



## 内容

- › 日本とオランダ
- › なぜ植物育種なのか
- › 植物育種と温室技術：  
トッパセクターアプローチ
- › キーメッセージ





# 日本とオランダ

- 17世紀から貿易関係
- 両国ともに、開かれた経済、貿易、IPを重視
- 両国ともに、強い種子産業を保有（サカタのタネ、タキイ種苗はオランダにも進出）
- 両国ともに、UPOV条約を強く擁護（植物多様性の保護）





# なぜ農業にイノベーションが必要なのか

- 世界人口の増加ーより多くの収穫
- 消費傾向の変化ーより多くのタンパク質
- バイオベースの循環経済
- 以下の項目にさらに適合：
  - 塩水化ー乾燥状態
  - 気候変動
  - 少ない添加物（殺虫剤、窒素、リン酸塩）
  - 少ないエネルギーコスト

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





# 植物育種と温室技術： トップセクターアプローチ

園芸と植物繁殖のための資材はトップセクター（重点セクター）

民間部門、専門機関、公共部門による『ゴールデン』トライアングル

非競争領域技術の研究開発を官民パートナーシップにより計画  
長期的なゴール：社会の課題を解決

3つのメイントピック：

- 知識とイノベーション
- 人的資本アジェンダ
- 国際的な貿易と協力



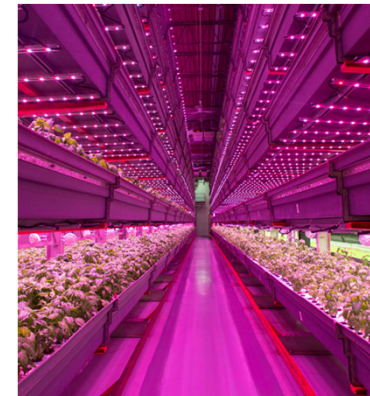


# 例

## 主な課題

- 添加物と廃棄物を低減
    - (エネルギー、労働、水、殺虫剤)
  - 収穫量を最大化
  - さらなる循環農業
- 
- LEDによる室内栽培—都市部でも？
  - ロボットが制御できるようプラントのアーキテクチャーを変更
  - 太陽光パネルと温室おおいの組み合わせ—『二重収穫』

どの例においても：新しいハードウェアだけでなく、新しい遺伝的特徴、新しい需要に対応するプラントを開発





## キーメッセージ

- さまざまな理由でイノベーションが必要
- 園芸+グリーン遺伝学がキーになる技術プラットフォーム
- 2つの技術の組み合わせで、新しい方向性が開ける
- この分野で日本とオランダは強力なコンビとなり得る

